

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	吉田町立こども発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年10月20日		～ 令和7年11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53名	(回答者数) 36名
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日		～ 令和7年11月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・公立の施設であり、役場内の関係各所や併設している保育園と連携がとりやすい。	・必要に応じて健診時の様子や健診事後教室の情報を共有している。 ・併設の保育園と、年間計画に基づき定期的に交流の機会を設けている。また、大きな集団生活への移行を考えている児においては、個別の交流機会も設けている。 ・公立保育園との職員交流を行っている。	・事業所と保育園の職員がもっと近い存在になり、普段の生活の中でも自然と交流が生まれるような関係性になっていくと良い。来年度はセンターになるため、より充実していけるようにする。
2	・国の基準を上回る職員数を配置しており、手厚い支援が行える。 (子ども3人(上限)に対して職員を1人配置している)	・職員数が多いことにより、子どもの様子に合わせて個別の対応も可能である為、担当の枠を超えて、職員間で声をかけ合いながら療育にあたっている。 ・事例検討や行動観察等、個々の姿や関わり方について深めたり、個々やクラスの育ちに必要関わりを考えたりする時間を設け、所内全体で共有している。	・職員数が多いがゆえの連絡不足がないように、職員間の連携はしっかりと取っていく必要がある。 ・センターへの引継ぎを丁寧に行う。
3	・保護者向けの研修及び座談会を設けている。	・昨年度の課題を踏まえて、心理士を招いて“子育てについて学ぼう会”という保護者向け研修(年1回)や保護者同士で繋がりが持てるよう座談会(年2回)を行った。	・保育参加等、所内の他の行事との兼ね合いも考えながら、実施の時期や時間帯を考えていく。また、実際の保護者からの意見も参考に設定する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の療育への専門知識が浅い。	・公立施設の為、町立保育園との間で職員の異動があり、経験年数が短い職員が多い。また、保育園色が強くなってきて、療育として大切にしたいこと等がうまく伝承していきにくい。	・センターになり、質が高まるように努める。 ・職員同士がいろいろなことをきっかけに話をし、お互い高め合っていくことが必要。
2	・地域との繋がりが少ない。	・保育園との併設により、別の施設と認識がされにくい。 ・名前に漢字ばかりが並び、硬いイメージを受ける。 ・施設が存在自体を知らない保護者もいる。 ・町内に努める保育者においても、内部がどんな施設なのかという認知度は低い。	・健診時に全体にパンフレットを配布する等、施設の名前を目にする機会を増やす。 ・施設の概要や役割について実際に見てもらえる機会を設ける。
3	・子どもたちに合わせた環境を整えるもの(道具、教材など)が少ない。	・療育の視点からのもの(道具、教材など)の知識が浅い。 ・固定遊具の物足りなさを感じる。 ・園庭の広さに対して、子どもの動線がぶつかりやすい。	・専門的な視点からのアドバイスを受け必要なものを検討する。 ・園外保育の計画や充実を図る。